

明治三十四年十二月七日 外務大臣報告
 清國義和團事變 關北京議定 關係書類

国立公文書館			
分類		2 A	
配架番号		15-8	
			柜D1552

公文書館
利用上の注意
 本館所蔵の公文書及び関係書類は、公共機関の館主における免責を記録したものであります。したがって当該公文書の共同著作物の解されまふので、引用等複製に際し著作権法上の問題の生ずることのないよう特に御注意願います。

明治三十四年十二月二十八日印刷外務省文書

秘

明治三十四年十二月七日 外務大臣報告 (附原案)
於下

清國義和團事變ニ關スル北京議定書及關係書類

明治三十四年十二月二十八日印刷外務省文書

連 名 公 書

本年五月、六月、七月及八月ノ間ニ於テ容易ナラサル紛亂清國北部ノ諸省ニ發生シ人類ノ歴史ニ前例ナキ罪惡、國際ノ法則ニ反シ人道ニ反シ且文明ニ反スル罪惡特ニ憎ムヘキ事情ノ下ニ犯サレタリ此等罪惡ノ重大ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 六月二十日獨逸國公使男爵、フォン、ケッテル閣下ハ其職務執行中總理衙門ニ赴クノ途上ニ於テ長官ノ命令ニ依リ行動セル官兵ノ爲ニ殺害セラレタリ

第二 同日外國公使館攻撃セラレ且包圍セラレタリ此等攻撃ハ八月十四日即外國軍到着シテ之ヲ制止シタル日迄間斷ナク繼續セリ此等攻撃ハ拳匪ト連合シ且皇室カ其ノ宮城ヨリ發シタル命令ヲ奉セル官兵ニ依テ先ツ行ハレタリ是レ恰モ清國政府カ其ノ在外代表者ヲシテ公使館ノ安全ヲ保證スル旨ヲ公然宣言セシメタル時ニ係ル

第三 六月十一日日本國公使館書記生杉山氏ハ其ノ公然タル使命執行中城門ニ於テ官兵ノ爲ニ殺害セラレタリ

北京及諸省ニ於テ外國人ハ拳匪竝ニ官兵ノ爲ニ或ハ殺害セラレ或ハ殘虐セラレ或ハ攻撃セラレタリ而シテ其ノ難ヲ免レタルハ唯其ノ決死ノ抵抗ニ依リタルノミ而シテ又外國人ノ建造物ハ掠奪セラレ若ハ破壞セラレタリ

第四 外國人ノ埋葬地ハ汚瀆セラレ其ノ墳墓ハ發掘セラレ骸骨ハ散棄セラレタリ其ノ北京ニ在ルモノヲ特ニ甚シトス

此等事變ハ諸外國ヲシテ其ノ代表者及其ノ國民ノ生命ヲ保護シ且秩序ヲ恢復スルカ爲

ニ其ノ軍隊ヲ清國ニ派遣セシムルニ至レリ而シテ聯合兵ハ北京ニ進行スルニ方リ清國兵ノ抵抗ニ遭ヒ己ムヲ得スカヲ以テ之ヲ壓服シタリ

清國ハ今既ニ其ノ責任ヲ認識シ其ノ悔悟ヲ表彰シ此ノ紛亂ニ由リ生シタル事局ヲ終結スルノ希望ヲ聲明シタルカ故ニ列國ハ既犯ノ罪惡ヲ賠償シ其ノ再發ヲ防遏スル爲メ必須不可欠ト判定シタル左記ノ不可改易的條件ヲ以テ清國ノ請求ヲ容ルルコトニ決定セリ

第一條

(甲) 故獨逸國公使男爵「フォン、ゲッテレル」閣下虐殺ノ件ニ關シ清國皇帝陛下竝ニ清國政府ノ惋惜ノ意ヲ表彰スル爲メ皇族ノ一人ヲ以テ首任トスル特命使節ヲ伯林ニ派遣スルコト
(乙) 右虐殺ニ關シ死者ノ官位ニ適合シ且羅甸語獨國語及清國語ヲ以テ清國皇帝陛下ノ惋惜ヲ表スルノ銘誌ヲ有スル紀念碑ヲ虐殺ノ地點ニ建設スルコト

第二條

(甲) 千九百年九月二十五日ノ上諭中ニ指名セラレタル犯罪者竝ニ列國代表者ニ於テ今後指示スヘキ犯罪者ニ對シ其ノ各自ノ罪惡ニ該當スル最嚴刑ヲ科スルコト
(乙) 外國人ノ虐殺セラレ若ハ虐待セラレタル各市府ニ於テハ五箇年間一切ノ科擧ヲ停止スルコト

第三條

日本國公使館書記生杉山氏ノ虐殺ニ對シ清國政府ハ日本國政府ニ向ヒ名譽アル賠償ヲ爲スヘキコト

第四條

清國政府ハ外國若ハ各國共同墓地ニシテ汚瀆セラレ又ハ其ノ所在墳墓ノ破壞セラレタルモノニハ各贖罪ノ紀念碑ヲ建設スルコト

第五條

列國ノ協定スヘキ條件ニ從ヒ兵器及專ラ兵器彈藥ノ製造ニ使用セララル材料ノ輸入ヲ禁止スルコト

第六條

(甲) 國家團體及個人竝ニ外國人ニ雇使セラレ居リタルノ故ヲ以テ輓近ノ事變ノ間ニ其ノ身體若ハ財産ニ損害ヲ蒙リタル清國人ニ對シ公平ナル賠償ヲ爲スコト
(乙) 清國ハ償金ノ支拂竝ニ國債ノ使用ヲ保證セムカ爲ニ列國ニ於テ容認セララルヘキ財政上ノ措置ヲ執ルヘキコト

第七條

列國ハ各其ノ公使館ノ爲ニ常置護衛兵ヲ組織シ且公使館所在區域ヲ防禦ノ狀態ニ置クノ權利ヲ有シ清國人ハ右區域内ニ住居ノ權利ヲ有セサルコト

第八條

大沽砲臺竝ニ北京ト海濱間ノ自由交通ヲ阻碍シ得ヘキ諸砲臺ヲ削平スルコト

第九條

首都海濱間ノ自由交通ヲ維持セムカ爲ニ列國間ノ協議ヲ以テ決定スヘキ各地點ヲ軍事

的ニ占領スルノ權利アルコト

第十條

(甲) 清國政府ハ左記ノ各項ヲ記載セル詔勅ヲ二箇年間各縣内ニ揭示スヘキコト
排外的團體ニ加入スルコトヲ永久ニ禁止シ犯ス者ヲ死刑ニ處スルコト

有罪者ニ科シタル刑名ヲ列舉シ其ノ内ニハ外國人カ虐殺セラレ若ハ虐待セラレタル
各市府ニ於テ一切ノ科擧ヲ停止シタルコトヲモ包含セシムルコト

(乙) 總督巡撫及各省各地方ノ官吏ハ各其ノ管轄内ニ於ケル秩序ニ對シテ職責ヲ有スヘ
ク且排外的紛擾ノ再發竝ニ其ノ他條約違反ノ事アルニ當リ直ニ之ヲ鎮定セス又其ノ犯
罪者ヲ處罰セサル場合ニハ該官吏ハ直ニ罷免セララルヘク且新官職ニ任命セラレ若ハ新
名譽ヲ享受スルコト能ハサルヘキ旨ヲ宣言セル上諭ヲ發シ之ヲ全帝國內ニ頒布スヘキ
コト

第十一條

清國政府ハ外國政府カ有用ト認ムル通商及航海條約ノ修正竝ニ通商上ノ關係ヲ便利ナ
シシムル爲メ其ノ他ノ通商事項ニ關シ商議スヘキコトヲ約スルコト

第十二條

清國政府ハ列國ノ指定スル旨趣ニ據リ總理衙門ヲ改革シ且外國代表者ノ謁見ニ關スル
宮廷ノ禮式ヲ變更スヘキコトヲ約スルコト

清國政府カ列國ノ満足スルカ如ク前記ノ條件ニ適應スル迄ハ下名等ハ聯合軍隊ノ北京
及直隸全省占領ノ終止ヲ豫見セシムル能ハサルコト

千九百年十二月二十二日北京ニ於テ

獨逸國全權委員

ア、ムンム

(署名)

奧地利洪牙利國全權委員

エム、チカン

(署名)

白耳義國全權委員

シュースタンス

(署名)

西班牙國全權委員

ペ、ジ、ド、コロガン

(署名)

亞米利加合衆國全權委員

イ、エツチ、コンガー

(署名)

佛蘭西國全權委員

エス、ピシヨン

(署名)

大不列顛國全權委員

アーネスト、サトウ

(署名)

伊太利國全權委員

サルヴァゴ、ラッシー

(署名)

日本國全權委員

西 德 二 郎

(署名)

和蘭國全權委員

エフ、エム、クノーベル

(署名)

露西亞國全權委員

ミシエル、ド、ギールス

(署名)

千九百年十二月三十日清國全權委員ヨリ筆頭公使ヘノ來簡

以書翰致啓上候陳者本月三日各國全權大臣ヨリ面交セラレタル公議條約十二箇條ハ早速本王大臣ヨリ全文漢譯ノ上及電奏候處本月七日ニ於テ六日ノ電旨ヲ奉セシニ奕劻及李鴻章ノ電文ハ閱悉セリ電奏スル所ノ十二箇條ノ大綱ハ直ニ照允スヘシ此ヲ欽メヨト有之候ニ付右及御通知候條貴大臣ヨリ各國全權大臣ヘ御轉報相成度且何レノ日時何レノ場所ニ於テ會談可致哉御取極メ御回報ヲ煩ハシ度候將又以上ノ各條清國政府ノ允准ヲ經タル上ハ各國ハ未タ撤兵セサルノ前ニ於テ再ヒ軍隊ヲ分派シテ各州縣城鎮ニ前往セシメス以テ人心ヲ安ンシ和好ヲ敦フセラレンコトヲ本王大臣ハ茲ニ致請求候此段照會得貴意候敬具

光緒二十六年十一月九日

欽命全權大臣 慶親王

欽差全權大臣 李鴻章

西班牙國全權大臣 コロガン閣下

千九百一十一年一月七日筆頭公使ヨリ清國全權委員ヘノ往簡

以書翰致啓上候陳者列國全權委員ハ客歲十二月二十四日ノ會議ニ於テ殿下及閣下ヨリ該委員等ニ交付セラレタル全權委任狀ノ正實ナルヲ認メタルコトヲ及御通知且十二月二十四日及御交付候公文十二箇條ノ全部承諾ノ旨ヲ宣言セラルル皇帝陛下ノ勅諭ヲ添附セル同月三十日附貴王大臣ノ公文ヲ領收シタル旨同僚諸氏ノ依頼ニ因リ及御通牒候

列國全權委員等ハ右承諾ノ旨ヲ領シ貴王大臣ノ署名ヲ得シカ爲メ別紙議定書御送付方本員ニ致依頼候又同委員等ハ皇帝ノ御璽ヲ鈐セラレタル勅諭ノ正本一部ヲ各公使館ニ送付アラシムコトヲ致希望候然ルトキハ本員等カ満足ヲ以テ閣下ニ相成候ハ正當ノ形式ヲ備ヘ不可改易的條件ハ茲ニ争フヘカラサルモノト相成本員等ハ貴王大臣ト共ニ該條件ノ實施ニ伴フ細項ノ問題ヲ調査スルコトヲ得ヘク候

列國全權委員ニ於テハ御璽ヲ鈐シタル勅諭及殿下ト閣下トノ署名アル別紙議定書ヲ領收致シ候ハハ御請求相成候會合ノ爲ニ成ルヘク近キ時日ヲ選定シテ速ニ可及御通知候貴王大臣ニ於テ提出ヲ要スト信セラルル問題有之候ハハ同委員等ニ於テ之ニ對スル回答ヲ協定シ得ル爲メ豫メ書面ニテ該問題ヲ御通知相成以テ時日ノ消失ヲ避ケラルル様致希望候

本員ハ茲ニ殿下及閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

千九百一十一年一月七日 北京ニ於テ

欽命全權大臣 慶親王殿下
欽差全權大臣 李鴻章閣下

ド、ユロガン(署名)

明治三十四年十一月二十八日印刷外務省文書

議 定 書

千九百年十二月二十四日

獨逸國

奧地利洪牙利國

白耳義國

西班牙國

亞米利加合衆國

佛蘭西國

大不列顛國

伊太利國

日本國

和蘭國

露西亞國

全權委員ハ本王大臣ニ下文ノ公書ヲ提出セリ

本年五月、六月、七月及八月ノ間ニ於テ容易ナラサル紛亂清國北部ノ諸省ニ發生シ人類ノ歴史ニ前例ナキ罪惡、國際ノ法則ニ反シ人道ニ反シ且文明ニ反スル罪惡特ニ憎ムヘキ事情ノ下ニ犯サレタリ此等罪惡ノ重大ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 六月二十日獨逸國公使男爵、フォン、ゲッテレル閣下ハ其ノ職務執行中總理衙門ニ赴ク

ノ途上ニ於テ長官ノ命令ニ依リ行動セル官兵ノ爲ニ殺害セラレタリ
第二 同日外國公使館攻撃セラレ且包圍セラレタリ此等攻撃ハ八月十四日即外國軍
到著シテ之ヲ制止シタル日迄間斷ナク繼續セリ此等攻撃ハ拳匪ト連合シ且皇室カ其
ノ宮城ヨリ發シタル命令ヲ奉セル官兵ニ依テ先ツ行ハレタリ是レ恰モ清國政府カ其
ノ在外代表者ヲシテ公使館ノ安全ヲ保證スル旨ヲ公然宣言セシメタル時ニ係ル
第三 六月十一日日本國公使館書記生杉山氏ハ其ノ公然タル使命執行中城門ニ於テ
官兵ノ爲ニ殺害セラレタリ

北京及諸省ニ於テ外國人ハ拳匪竝ニ官兵ノ爲ニ或ハ殺害セラレ或ハ殘虐セラレ或ハ
攻撃セラレタリ而シテ其ノ難ヲ免レタルハ唯其ノ決死ノ抵抗ニ依リタルノミ而シテ
又外國人ノ建造物ハ掠奪セラレ若ハ破壊セラレタリ

第四 外國人ノ埋葬地ハ汚瀆セラレ其ノ墳墓ハ發掘セラレ骸骨ハ散棄セラレタリ其
ノ北京ニ在ルモノヲ特ニ甚シトス

此等事變ハ諸外國ヲシテ其ノ代表者及其ノ國民ノ生命ヲ保護シ且秩序ヲ恢復スルカ
爲ニ其ノ軍隊ヲ清國ニ派遣セシムルニ至レリ而シテ聯合兵ハ北京ニ進行スルニ方リ
清國兵ノ抵抗ニ遭ヒ已ムヲ得ス力ヲ以テ之ヲ壓服シタリ

清國ハ今既ニ其ノ責任ヲ認識シ其ノ悔悟ヲ表彰シ此ノ紛亂ニ由リ生シタル事局ヲ終
結スルノ希望ヲ聲明シタルカ故ニ列國ハ既犯ノ罪惡ヲ賠償シ其ノ再發ヲ防遏スル爲
メ必須不可欠ト判定シタル左記ノ不可改易的條件ヲ以テ清國ノ請求ヲ容ルルコトニ決

定セリ

第一條

(甲) 故獨逸國公使男爵、フオン、ケッテレル閣下虐殺ノ件ニ關シ清國皇帝陛下竝ニ清國政府ノ惋惜ノ意ヲ表彰スル爲メ皇族ノ一人ヲ以テ首任トスル特命使節ヲ伯林ニ派遣スルコト

(乙) 右虐殺ニ關シ死者ノ官位ニ適合シ且羅甸語、獨國語及清國語ヲ以テ清國皇帝陛下ノ惋惜ヲ表スルノ銘誌ヲ有スル紀念碑ヲ虐殺ノ地點ニ建設スルコト

第二條

(甲) 千九百年九月二十五日ノ上諭中ニ指名セラレタル犯罪者竝ニ列國代表者ニ於テ今後指示スヘキ犯罪者ニ對シ其ノ各自ノ罪惡ニ該當スル最嚴刑ヲ科スルコト

(乙) 外國人ノ虐殺セラレ若ハ虐待セラレタル各市府ニ於テハ五箇年間一切ノ科擧ヲ停止スルコト

第三條

日本國公使館書記生杉山氏ノ虐殺ニ對シ清國政府ハ日本國政府ニ向ヒ名譽ナル賠償ヲ爲スヘキコト

第四條

清國政府ハ外國若ハ各國共同墓地ニシテ汚瀆セラレ又ハ其ノ所在墳墓ノ破壞セラレタルモノニハ各贖罪ノ紀念碑ヲ建設スルコト

第五條

列國ノ協定スヘキ條件ニ從ヒ兵器及專ヨ兵器彈藥ノ製造ニ使用セララルル材料ノ輸入ヲ禁止スルコト

第六條

(甲) 國家團體及個人竝ニ外國人ニ雇使セラレ居リタルノ故ヲ以テ輓近ノ事變ノ間ニ其ノ身體若ハ財産ニ損害ヲ蒙リタル清國人ニ對シ公平ナル賠償ヲ爲スコト
(乙) 清國ハ償金ノ支拂竝ニ國債ノ使用ヲ保證セムカ爲ニ列國ニ於テ容認セラレヘキ財政上ノ措置ヲ執ルヘキコト

第七條

列國ハ各其ノ公使館ノ爲ニ常置護衛兵ヲ組織シ且公使館所在區域ヲ防禦ノ狀態ニ置クノ權利ヲ有シ清國人ハ右區域内ニ住居ノ權利ヲ有セサルコト

第八條

大沽砲臺竝ニ北京ト海濱間ノ自由交通ヲ阻碍シ得ヘキ諸砲臺ヲ削平スルコト

第九條

首都海濱間ノ自由交通ヲ維持セムカ爲ニ列國間ノ協議ヲ以テ決定スヘキ各地點ヲ軍事的ニ占領スルノ權利アルコト

第十條

(甲) 清國政府ハ左記ノ各項ヲ記載セル詔勅ヲ二箇年間各縣内ニ揭示スヘキコト

排外的團體ニ加入スルコトヲ永久ニ禁止シ犯ス者ヲ死刑ニ處スルコト

有罪者ニ科シタル刑名ヲ列舉シ其ノ内ニハ外國人カ虐殺セラレ若ハ虐待セラレタル各市府ニ於テ一切ノ科擧ヲ停止シタルコトヲモ包含セシムルコト

(乙) 總督巡撫及各省各地方ノ官吏ハ各其ノ管轄内ニ於ケル秩序ニ對シテ職責ヲ有スヘク且排外的紛擾ノ再發竝ニ其ノ他條約違反ノ事アルニ當リ直ニ之ヲ鎮定セス又其ノ犯罪者ヲ處罰セサル場合ニハ該官吏ハ直ニ罷免セラレヘク且新官職ニ任命セラレ若ハ新名譽ヲ享受スルコト能ハサルヘキ旨ヲ宣言セル上諭ヲ發シ之ヲ全帝國內ニ頒布スヘキコト

第十一條

清國政府ハ外國政府カ有用ト認ムル通商及航海條約ノ修正竝ニ通商上ノ關係ヲ便利ナラシムル爲メ其ノ他ノ通商事項ニ關シ商議スヘキコトヲ約スルコト

第十二條

清國政府ハ列國ノ指定スル旨趣ニ據リ總理衙門ヲ改革シ且外國代表者ノ謁見ニ關スル官廷ノ禮式ヲ變更スヘキコトヲ約スルコト

清國政府カ列國ノ満足スルカ如ク前記ノ條件ニ遵應スル迄ハ下名等ハ聯合軍隊ノ北京及直隸全省占領ノ終止ヲ豫見セシムル能ハサルコト

千九百年十二月二十二日北京ニ於テ

獨逸國全權委員

ア、ムンム

(署名)

- 埃地利 洪牙利 國全權委員 (署名) エム、ナカン
- 白耳義 國全權委員 (署名) シュースタンス
- 西班牙 國全權委員 (署名) ベ、ジ、ド、コロガン
- 亞米利加 合衆國全權委員 (署名) イ、エッチ、コンガー
- 佛蘭西 國全權委員 (署名) エス、ピション
- 大不列顛 國全權委員 (署名) アーネスト、サトウ
- 伊太利 國全權委員 (署名) サルヴァゴ、ラッジー
- 日本 國全權委員 (署名) 西 德 二 郎
- 和蘭 國全權委員 (署名) エフ、エム、クノー、ベル
- 露西亞 國全權委員 (署名) ミシエル、ド、ギールス

本王大臣ハ速ニ此ノ公書ノ全文ヲ皇帝陛下ニ傳奏シ陛下ハ之ヲ親閱セラレタル後左ノ如キ勅諭ヲ發セラレタリ

奕劻及李鴻章ノ電文ハ閱悉セリ奏スル所ノ十二箇條ノ大綱ハ直ニ照允スヘシ此ヲ欽

因テ欽命全權大臣便宜行事管理總理各國事務衙門事務和碩慶親王及欽差全權大臣便宜行事太子太傅文華殿大學士商務大臣北洋大臣直隸總督部堂一等肅毅伯李鴻章ハ皇帝陛下ニ其ノ傳奏ヲ託セラレタル十二箇條ヲ全然承諾スルコトヲ宣言ス

右證據トシテ本王大臣ハ此ノ議定書ニ署名シタリ且本王大臣ハ御璽ヲ鈐シタル皇帝陛下ノ勅諭一部ヲ各國全權委員ニ分送ス

文義ニ疑議ヲ生シタル場合ニハ佛文ヲ以テ憑ト爲ス

千九百一十一年一月十六日北京ニ於テ

奕 劻 (署名)
李 鴻 章 (署名)

千九百一十一年一月十六日清國全權委員ヨリ帝國公使ヘノ來簡

以書翰致啓上候陳者照允ノ上諭ヲ恭錄シ御璽ヲ押捺シテ本王大臣ヨリ各公使館ヘ一通宛分送シ以テ信實ヲ昭ニスヘキ旨光緒二十六年十一月十七日ニ於テ御照會ニ接シ候ニ付早速本王大臣ヨリ電奏ニ及ヒタル上茲ニ十一月六日ノ諭旨一通ヲ恭錄シ同二十四日御璽ヲ押川シテ及御送付候條御查收相成度候且前回勅書ニ押捺セラレタル勅命之寶ハ臣下ニ詔諭スルトキ川非ララルル御璽ニシテ今回ノ諭旨ニ押捺セラレタル皇帝之寶ハ友邦ニ布告スルトキ川非ララルル御璽ニ有之候此義併テ聲明致置候此段回答得貴意候敬具

光緒二十六年十一月二十六日

欽命全權大臣 慶親王

欽差全權大臣 李鴻章

大日本國全權大臣小村閣下

(別紙)

諭旨

國寶

寶ニハ滿漢兩様ノ文字ニテ皇帝之寶トアリ

光緒二十六年十一月六日

旨ヲ奉ス奕助及李鴻章ノ電文ハ閱悉セリ奏スル所ノ十二箇條ノ大綱ハ直ニ照允スヘシ
此ヲ欽メヨ

光緒二十六年十一月二十四日

三十四年十一月二十八日印刷外務省文書

最終議定書

議定書

獨逸國全權委員	ア、ムンム、フォン、シユワルツェンスタイン閣下
奧地利洪牙利國全權委員	男爵エム、チカン、フォン、ツールボルン閣下
白耳義國全權委員	ジースタンス閣下
西班牙國全權委員	ベ、ジード、コロガン閣下
亞米利加合衆國全權委員	ダブリュー、ダブリュー、ロックヒル閣下
佛蘭西國全權委員	ポール、ボツ閣下
大不列顛國全權委員	サー、アーネスト、サトツ閣下
伊太利國全權委員	侯爵サルヅゴ、ラッジー、閣下
日本國全權委員	小村壽太郎閣下
和蘭國全權委員	エム、エム、クノーペル閣下
露西亞國全權委員	エム、ド、ギールス閣下
及	
清國全權委員	總理外務部 和碩慶親王奕劻殿下 太子太傅文華殿大學士商務大臣 李鴻章閣下 北洋大臣直隸總督部堂一等肅毅伯

ハ清國カ列國ノ満足スル如ク千九百年十二月二十二日ノ連名公書ニ列舉セラレ且清國

皇帝陛下ニ於テ千九百年十二月二十七日ノ勅諭附屬書第一號ヲ以テ其ノ全部ヲ納レラレタル所ノ各條件ニ遵應シタルコトヲ確認スル爲メ茲ニ會合スルモノナリ

第一條甲

去ル六月九日ノ上諭附屬書第二號ヲ以テ醇親王載灃清國皇帝陛下ノ大使ニ任セラレ此ノ資格ヲ以テ故獨逸國公使男爵フオン、ケッテレル閣下虐殺ノ件ニ關シ清國皇帝陛下及清國政府惋惜ノ意ヲ獨逸國皇帝陛下ニ致スヘキコトヲ命セラレタリ

醇親王ハ此ノ使命ヲ果サムカ爲ニ去ル七月十二日北京ヲ發程セラレタリ

第一條乙

清國政府ハ故男爵フオン、ケッテレル閣下虐殺ノ地點ニ於テ死者ノ官位ニ適合シ且羅甸語獨國語、清國語ヲ以テ右殺害ニ關シ清國皇帝陛下ノ惋惜ヲ表スルノ銘誌ヲ有スル紀念碑ヲ建設スヘキコトヲ聲明シタリ

清國全權委員閣下ハ去ル七月二十二日ノ書簡附屬書第三號ヲ以テ道路全幅ノ牌坊ヲ該地點ニ建設スルコト及去ル六月二十五日ヨリ其ノ工事ニ著手シタルコトヲ獨逸國全權委員閣下ニ通知シタリ

第二條甲

千九百一年二月十三日及二十一日ノ各上諭附屬書第四號第五號及第六號ヲ以テ外國政府及外國臣民ニ對スル非企及罪惡ノ首犯者ニ左ノ刑罰ヲ科シタリ

端郡王載漪及輔國公載瀾ハ斬監候ニ處セラレタリ而シテ若皇帝ニ於テ之ニ恩典ヲ加ヘ

死ヲ免カレシムヘシトノ叡慮アルトキハ之ヲ新疆ニ遠謫シテ永久禁錮ニ處シ何等減刑ノ恩典ヲ加フルコト無カルヘキ旨約定セラレタリ

莊親王載勛、都察院左都御史英年及刑部尙書趙舒翹ハ自盡ノ刑ニ處セラレタリ

山西巡撫毓賢、禮部尙書啓秀及前刑部左侍郎徐承煜ハ死刑ニ處セラレタリ

吏部尙書協辦大學士剛毅、大學士徐桐及前四川總督李秉衡ハ官位追奪ヲ宣告セラレタリ

千九百一年二月十三日ノ上諭附屬書第七號ヲ以テ昨年ニ於ケル最モ憎ムヘキ國際公法違反ノ行

爲ニ反對シ之カ爲ニ生命ヲ奪ハレタル兵部尙書徐川儀、戸部尙書立山、吏部左侍郎許景澄

内閣學士聯元及太常寺卿袁昶ノ官位ヲ復セラレタリ

莊親王ハ千九百一年二月二十一日英年及趙舒翹ハ二十四日ニ自殺シ毓賢ハ二十二日啓

秀及徐承煜ハ二十六日ニ死刑ヲ執行セラレタリ

甘肅提督董福祥ハ後日ヲ待テ其ノ刑罰ヲ確定スヘキモノトシテ先ツ二月十三日ノ上諭

ヲ以テ其ノ官職ヲ奪ハレタリ

千九百一年四月二十九日及八月十九日ノ各上諭ヲ以テ昨年夏季ニ於ケル非企及罪惡ノ

有罪者ト認メタル地方官吏ニ各自相當ノ刑罰ヲ科セラレタリ

第二條乙

千九百一年八月十九日ノ上諭附屬書第八號ヲ以テ外國人カ虐殺セラレ若ハ虐待セラレタル各市

府ニ於テ五箇年間科擧ノ停止ヲ命セラレタリ

第三條

故日本國公使館書記生杉山氏ノ虐殺ニ對シ名譽アル賠償ヲ爲スカ爲ニ清國皇帝陛下ハ千九百一年六月十八日ノ上諭附屬書第九號ヲ以テ戸部侍郎那桐ヲ特使ニ任シ杉山氏虐殺ノ件ニ對スル清國皇帝陛下及其ノ政府ノ惋惜ノ意ヲ日本國皇帝陛下ニ致スヘキコトヲ特ニ命セラレタリ

第四條

清國政府ハ外國若ハ各國共同墓地ニシテ汚漬セラレ又ハ其ノ所在墳墓ノ破壊セラレタルモノニハ各贖罪ノ紀念碑ヲ建設スルコトヲ約シタリ依テ關係公使館ハ右建設ニ關シ指示ヲ與フヘク清國ハ其ノ一切ノ費用ヲ支拂フヘキコトニ列國代表者トノ協議商定ヲ經タリ而シテ此ノ費用ハ北京及其ノ近傍ノ墓地ニ對シテハ各一萬兩地方ノ墓地ニ對シテハ各五千兩ト豫算シ該金額ハ支出ヲ了セラレタリ茲ニ其ノ墓地表ヲ添附ス附屬書第十號

第五條

清國ハ兵器彈藥及專ラ兵器彈藥ノ製造ニ使用セララルヘキ材料ヲ清國版圖内ニ輸入スルノ禁止ヲ承諾シタリ而シテ二箇年間該輸入ヲ禁止スル爲メ八月二十五日ノ上諭附屬書第十一號ヲ發布セラレタリ嗣後尙ホ列國ニ於テ之ヲ必要ト認ムル場合ニハ更ニ上諭ヲ以テ前記ノ期限ヲ引續キ二箇年宛延長スルコトヲ得

第六條

清國皇帝陛下ハ千九百一年五月二十九日ノ上諭附屬書第十二號ヲ以テ列國ニ四億五千萬海關兩ノ償金ヲ支拂フコトヲ約諾セラレタリ此ノ金額ハ即千九百年十二月二十二日ノ連名公

書第六條ニ指定シタル國家、團體、個人及清國人ニ對スル償金ノ總額ヲ表示スルモノトス

(甲) 此ノ四億五千萬兩ハ左ニ示スカ如キ海關兩ノ列國金貨ニ對スル相場ニ基キ計算シタル金貨債ヲ組成スルモノトス

一 海關兩ハ 三、〇五五 「マールク」

三、五九五 奧國、クウロンヌ

〇、七四二 金 弗

三、七五〇 「フランク」

〇、三志〇片

一、四〇七 圓

一、七九六 蘭 國、フロレン

一、四一二 金、ルーブル〔品位一七、四二四〕ドリア

ニ相當ス

清國ハ右金貨債額ニ年四分ノ利子ヲ附シ別紙償還表附屬書第十三號ニ示セル條件ニ從ヒ三十

九箇年ヲ以テ其ノ元金ヲ支拂フヘキモノトス

元金及利子ノ支拂ハ金貨ヲ以テスルカ若ハ各支拂期日ニ於ケル爲換相場ヲ以テスヘ

シ

元金償還ハ千九百二年一月一日ニ始マリ千九百四十年ノ末ニ終ル償還金ハ毎年之ヲ

支拂フヘキモノトシ其ノ第一回ノ拂込期限ヲ千九百三年一月一日ト定ム
 利子ハ千九百一年七月一日ヨリ起算ス然レトモ清國政府ハ千九百一年十二月三十一
 日ニ終ル第一期六箇月分ノ利子ヲ千九百二年一月一日以後三箇年ノ期限内ニ支拂フ
 コトヲ得但シ右延滞額ニ對シテハ年四分ノ重利ヲ附スヘキモノトス
 利子ハ六箇月毎ニ支拂フヘキモノトシ其ノ第一回ノ拂込期限ヲ千九百二年七月一日
 ト定ム

(乙) 公債支拂ハ左記ノ方法ニ依リ上海ニ於テ之ヲ行フヘシ
 列國ハ各一名ノ委員ニ依リテ銀行者委員會ニ代表セラルヘシ該委員會ハ特ニ之カ爲
 ニ指定セラレタル清國官吏ヨリ利子及元金ノ支拂ヲ受ケ之ヲ各關係者ニ配分シ且之
 ニ對シテ領收證ヲ交付スヘキ任務ヲ有スルモノトス

(丙) 清國政府ハ北京駐劄筆頭公使ニ償金總額ニ對スル一ノ債券ヲ交付スヘシ而シテ
 右債券ハ追テ特ニ之カ爲ニ指定セラレタル清國政府委員ノ記名セル小額債券ニ變換
 セラルヘキモノトス右ノ事務及債券ノ發行ニ關スル一切ノ事務ハ列國カ其ノ代表員
 ニ下スヘキ訓令ニ準シ前記委員會ニ於テ之ヲ處理スヘシ

(丁) 債券ノ支拂ニ充テタル財源ヨリ生スル收入ハ毎月之ヲ委員會ニ交付スヘシ

(戊) 債券ノ擔保ニ供セル財源ヲ列擧スルコト左ノ如シ
 第一 新稅關ノ收入ヲ抵當トシタル舊外國債ノ利子及元金ヲ拂ヒタル上存スル該
 收入ノ剩餘金ニ海路輸入品ニ對シ現行稅率ヲ現實五分稅ニ引上クルヨリ生スヘキ

收入ヲ加ヘタルモノ但シ外國ヨリ輸入ノ米、穀類、穀粉、金銀貨及金銀地金ヲ除クノ外
從來無稅ニテ輸入セラルル各物品ハ總テ五分稅ヲ拂フヘシ

第二 開港^場ニ於テハ新稅關ノ管理ニ屬スル舊稅關ノ收入

第三 鹽稅ノ收入總額但シ從來外國債ノ擔保ニ充テラレタル分ヲ除ク

現行輸入稅率ヲ現實五分稅ニ引上ルコトハ下記ノ條件ヲ以テ承諾セラレタリ

此ノ稅率引上ハ本議定書調印ノ日附ヨリ二箇月後ニ之ヲ實施シ而シテ右日附ヨリ遅ク

モ十日以内ニ運搬ノ途ニ上リタル商品ノ外其ノ適川ヲ免カルルコトヲ得サルモノトス

第一 從價ニテ徵收シ來レル輸入稅ハ爲シ得ル限り且成ルヘク速ニ從量稅ニ改定ス

ヘキモノトス此ノ改定ハ左ノ如クスヘシ即千八百九十七年、千八百九十八年及千八百

九十九年ノ三箇年間ニ於ケル各商品陸上當時ノ平均價格換言スレハ輸入稅及雜費ヲ

控除シタル市價ヲ以テ評價ノ基礎トス但シ右改定ノ結了ヲ見ルニ至ル迄ノ間ハ從價

ニテ徵稅スルコト

第二 白河及黃浦江ノ水路ハ清國ノ經費分擔ヲ以テ之ヲ改良スルコト

第七條

清國政府ハ各國公使館所在ノ區域ヲ以テ特ニ各國公使館ノ使用ニ充テ且全然公使館警

察權ノ下ニ屬セシメタルモノト認メ該區域内ニ於テハ清國人ニ住居ノ權ヲ與ヘス且之

ヲ防禦ノ狀態ニ置クヲ得ルコトヲ承諾シタリ此ノ區域ノ境界ハ別紙圖面^{附屬書第十四號}ニ示ス如

ク定メラレタリ即

西方ハ 一、二、三、四、五線

北方ハ 五、六、七、八、九、十線

東方ハ 「ケツテレル」街ノ十、十一、十二線

南方ハ 韃靼城壁ノ南址ニ循ヒ城壕ニ沿フテ畫シタル十二、一線

清國ハ千九百一年一月十六日ノ書簡ニ添附シタル議定書ヲ以テ各國カ其ノ公使館防禦ノ爲ニ公使館所在區域内ニ常置護衛兵ヲ置クノ權利ヲ認メタリ

第八條

清國政府ハ大沽砲臺竝ニ北京ト海濱間ノ自由交通ヲ阻碍シ得ヘキ諸砲臺ヲ削平セシムルコトヲ承諾シタリ而シテ右ニ關スル處置ハ實施セラレタリ

第九條

清國政府ハ千九百一年一月十六日ノ書簡ニ添附シタル議定書ヲ以テ各國カ首都海濱間ノ自由交通ヲ維持セムカ爲ニ相互ノ協議ヲ以テ決定スヘキ各地點ヲ占領スルノ權利ヲ認メタリ即此ノ各國ノ占領スル地點ハ黃村、郎房、楊村、天津、軍糧城、塘沽、蘆臺、唐山、灤州、昌黎、秦王島及山海關トス

第十條

清國政府ハ二箇年間地方ノ各市府ニ左記ノ上諭ヲ揭示公布スルコトヲ約諾シタリ

(甲) 排外的團體ニ加入スルコトヲ永久ニ禁止シ犯ス者ヲ死刑ニ處スル旨ヲ記載シタ

ル千九百一年二月一日ノ上諭附屬書第
十五號

(乙) 有罪者ニ科シタル刑名ヲ列舉シタル千九百一年二月十三日、二月二十一日、四月二十九日及八月十九日ノ上諭

(丙) 外國人カ虐殺セラレ若ハ虐待セラレタル各市府ニ於テ科舉ヲ停止スル千九百一年八月十九日ノ上諭

(丁) 總督巡撫及各省各地方ノ官吏ハ各其ノ管轄内ニ於ケル秩序ニ對シテ職責ヲ有スヘク且排外的紛擾ノ再發竝ニ其ノ他條約違反ノ事アルニ當リ直ニ之ヲ鎮定セス又ハ其ノ犯罪者ヲ處罰セサル場合ニハ該官吏ハ直ニ罷免セラルヘク且新官職ニ任命セラレ若ハ新名譽ヲ享受スルコト能ハサルヘキ旨ヲ宣言シタル千九百一年二月一日ノ上諭

附屬書第
十六號

以上ノ上諭ハ全帝國內ニ漸次揭示セラレツツアリ

第十一條

清國政府ハ外國政府カ有用ト認ムル通商及航海條約ノ修正竝ニ通商上ノ關係ヲ便利ナラシムル爲メ其ノ他ノ通商事項ニ關シ商議スヘキコトヲ約諾シタリ

清國政府ハ償金ニ關スル第六條中ノ規定ニ基キ今ヨリ左記ノ如ク白河及黃浦江水路ノ改良ニ協力スルコトヲ約諾シタリ

(甲) 千八百九十八年清國政府ノ協同ヲ以テ創始セラレタル白河航路ノ改良工事ハ各國委員ノ管理ノ下ニ再興セラレタリ天津ニ於ケル行政ノ清國政府ニ返還セラレタル上ハ清國政府ハ直ニ自己ノ代表者ヲ該委員ニ加フルコトヲ得ヘク且工事ノ維持費ト

シテ毎年六萬兩ヲ支出スヘシ

(乙) 黃浦江更正及其水路改良工事ノ指揮監督ヲ掌ルヘキ水路局ヲ設置ス
該局ハ上海ノ海路貿易ニ於ケル清國政府ノ利益ト外國人ノ利益トヲ代表スル委員ヲ
以テ組織ス經營ノ事業及一般ノ事務ニ必要ナル費用ハ最初二十箇年間ハ毎年四十六
萬兩ト見積リ清國政府ト關係者タル外國人トニ於テ各其ノ半額ヲ支出スヘシ水路局
ノ組織、職權及收入等ニ關スル細則ハ附屬書中ニ之ヲ記載ス附屬書第
十七號

第十二條

千九百一一年七月二十四日ノ上諭附屬書第
十八號ヲ以テ列國ノ指定シタル旨趣ニ因リ外交事務衙
門タル總理衙門ヲ改革セラレタリ即總理衙門ヲ外務部ト改メテ他ノ六部ノ上位ニ置ク
コトト爲シ而シテ又前記ノ上諭ヲ以テ外務部ノ主要ナル官吏ヲ任命セラレタリ
外國代表者ノ謁見ニ關スル宮廷ノ禮式ニ關シテモ亦既ニ商定シ經タリ此ノ件ニ關スル
清國全權委員ノ書簡數通アリ別紙覺書ニ其ノ要點ヲ摘載ス附屬書第
十九號
終リニ前記ノ各宣言及列國全權委員ヨリ發シタル附屬文書ニ關シテハ佛文ヲ以テ憑ト
爲スコトヲ特ニ約定ス

斯ノ如ク清國政府ハ列國ノ満足スル如ク千九百一十二年十二月二十二日ノ連名公書ニ列舉セラ
レタル各條件ニ遵應シタルヲ以テ列國ハ千九百一十年夏季ノ騷擾ヨリ發生シタル状態ノ終
止ニ至ラムコトノ清國ノ希望ヲ承允シタリ之ニ因テ列國全權委員ハ第七條ニ記載シタ
ル公使館護衛兵ヲ除キ千九百一一年九月十七日ヲ以テ北京ヨリ全然列國軍隊ヲ撤退シ又

第九條ニ記載シタル地點ヲ除キ同年九月二十二日ヲ以テ直隸省ヨリ撤兵スヘキコトヲ
其ノ各自ノ政府ノ名ヲ以テ茲ニ宣言ス
本最終議定書ハ同文十二通ヲ作り各締約國全權委員之ニ署名シ列國全權委員ニ一通宛
ヲ交付シ清國全權委員ニ一通ヲ交付ス

千九百一一年九月七日北京ニ於テ

ア、ムンム

(署名)

エム、ナカン

(署名)

シュースタンス

(署名)

ペーゼー、ド、コロガン

(署名)

ダブリュー、ダブリュー、ロックヒル

(署名)

ボウ

(署名)

アーネスト、サトウ

(署名)

サルヴァゴ、ラッジー

(署名)

小村壽太郎

(署名)

エフ、エム、クノーベル

(署名)

エム、ド、ギールス

(署名)

奕劻

(署名)

李鴻章

(署名)

治三十四年十一月二十八日印刷外務省文書

附
屬
書

附屬書第一號(千九百年十二月二十七日上諭)

上諭

國寶

光緒二十六年十一月六日 旨ヲ奉ス奕劻及李鴻章ノ電文ハ閱悉セリ奏スル所ノ十二箇條ノ大綱ハ直ニ照允スヘシ此ヲ欽メヨ

光緒二十六年十一月二十四日

附屬書第二號(千九百一一年六月九日上諭)

醇親王載灃ヲ頭等專使大臣トシテ獨逸國ニ前往シ敬謹命ヲ行ハシメ前内閣學士張翼副都統廕昌ハ何レモ隨同前往シテ一切ニ參贊スルヲ命ス此ヲ欽メヨ

附屬書第三號(千九百一年七月二十二日清國全權大臣ヨリ獨國公使へノ來簡)

以書翰致啓上候陳者本年五月三日附貴簡ヲ以テ連名公書第一條ニ載明シアル故獨國克大臣被害ノ場所ニ銘誌ノ碑ヲ建立スルコトニ關シ御照會之趣致了承候右ニ付テハ章京端良及候選道聯芳ニ於テ奉派辨理シ既ニ其ノ設計等ニ關シ本衙門ニ向ツテ度度商議ノ折柄再ヒ照會ヲ以テ右被害ノ場所ニ大理石ヲ用非其ノ幅崇文門大街ヲ滿タスヘキ牌坊一座ヲ建立センコトヲ希望スルモ材料ノ轉運困難ニシテ工事ニ許多ノ時日ヲ費スヘキニ因リ別ニ法ヲ設ケ他處ニ現存セル牌樓ヲ被害地點ニ移立スルカ又ハ新ニ建立スルカ若ハ舊來ノモノヲ流用スルカハ何レモ本國ノ裁決ヲ請フヘキヲ以テ本大臣ハ政府ノ意向ヲ電詢セシ處茲ニ回諭ヲ奉スルニ獨國大皇帝ノ睿慮ニテハ新ニ牌坊一座ヲ設立シ大街ニ滿タスヘシトアリ自ラ剴切ナルニ依リ迅速ニ妥辨シ以テ即刻起工ニ便セラレシコトヲ請フ旨御中越相成候ニ付本王大臣ハ直ニ之ニ遵照シテ辨理方前顯章京等ニ訓令ニ及ヒ候處既ニ五月十日ヨリ工事ニ着手シ先ツ地基ヲ築キタルモ山ヲ開キ石ヲ鑿リ且材料ヲ運搬スルニハ何レモ時日ヲ要ス乍去只管工人ヲ督飭シ力ヲ盡シ妥速辨理スヘキ旨復申有之候ニ依リ尙一切ノ工事ニ付テハ時時稟商スヘキ旨訓令及置候此段回答得貴意候敬具

光緒二十七年六月七日

附屬書第四號(千九百一一年二月十三日上諭)

京師五月ヨリ以來拳匪亂ヲ倡ヘ岬ヲ友邦ニ開ケリ現ニ奕劻及李鴻章ハ各國使臣ト共ニ京ニ在テ和ヲ議シ大綱ノ草約ハ既ニ畫押セシメタリ肇禍ノ始ヲ追思スレハ實ニ諸王大
臣ノ昏謬無知囂張跋扈ニ因ル深ク邪術ヲ信シ朝廷ヲ挾制シ拳匪ヲ勦辨セシメントスル上
諭ニハ抗シテ遵行セス反テ拳匪ヲ縱信シ妄ニ攻戰ヲ行ヒ以テ邪焰大ニ張り數萬ノ匪徒
ヲ肘腋ノ下ニ聚メ勢過ムヘカラサルヲ致ス又鹵莽ノ將卒ニ主令シ使館ヲ圍攻シ竟ニ數
月ノ間ニ奇禍ヲ釀成シ社稷ヲ玷危シ陵廟ヲ震驚シ地方ヲ蹂躪シ生民ヲ塗炭ニス朕ト皇
太后トノ危險ナリシ情形ハ言狀スルニ堪ヘス今ニ至リ痛心疾首悲憤交々深シ該諸王大
臣邪ヲ信シ匪ヲ縱テ上ハ宗社ヲ危クシ下ハ黎元ニ禍ス自ラ如何ノ罪ニ該當スルカヲ
問ヘ前ニ既ニ兩回諭旨ヲ下セシモ尙法ノ輕クシテ情ノ重ク辜ヲ蔽フニ足ラサルヲ覺ユ
故ニ更ニ其等差ヲ分別シ加フルニ懲處ヲ以テスヘシ既ニ革職シタル莊親王載勛ハ拳匪
ヲ縱容シ使館ヲ圍攻シ擅ニ條約違背ノ告示ヲ出シ又輕シク匪徒ノ言ヲ信シ多人ヲ枉殺
シ實ニ愚暴冥頑ニ屬スルニ由リ自盡ヲ命シ署左都御史葛寶華ヲシテ前往檢視セシム既
革端郡王載漪ハ諸王貝勒ニ倡率シ輕シク拳匪ヲ信シ妄言戰ヲ主トシ岬端ヲ肇ムヲ致ス
其ノ罪實ニ辭シ難シ又降級シテ他官ニ調用シタル輔國公載瀾ハ載勛ニ隨同シ妄ニ條約違
背ノ告示ヲ出セリ其ノ罪ニ由リ亦官爵ヲ革去スヘキ筈ナルモ惟懿親ニ屬スルヲ念ヒ特ニ
恩ヲ加ヘ新疆省ニ發往シ永遠ニ監禁セシムル爲メ先ツ員ヲ派シ看管セシム既革巡撫毓
賢ハ前ニ山東巡撫ノ任ニ在リシ時妄ニ拳匪ノ邪術ヲ信シ今ニ至ルマテ之ヲ稱譽シ以テ

諸王大臣カ其ノ煽惑ヲ受クルヲ致ス山西巡撫ノ任ニ在ルニ及ヒ又教士ト教民ノ多人ヲ
戕害シ最モ昏謬兇殘ニシテ罪魁且禍首タルニ屬スルニ由リ前ニ既ニ新疆ニ發遣セシメ
タリ計ルニ今ハ甘肅ニ行キシナラン旨ヲ傳ヘ直ニ法ヲ正スヲ命シ按察使何福堃ヲシテ
行刑ヲ檢視セシム前協辦大學士吏部尙書剛毅ハ拳匪ニ袒庇シ巨禍ヲ釀成シ且條約違背ノ
告示ニ同意シテ之ヲ出セリ本來彼ハ重典ニ處セラルヘキ筈ナルモ現ニ既ニ病死セシヲ
以テ原官ヲ追奪シ直ニ革職ヲ命ス又革職留任ノ甘肅提督董福祥ハ兵ヲ統ヘテ入衛セル
ニ拘ハラヌ紀律ヲ嚴ニセス又交渉ヲ諳セス率意鹵莽使館ヲ圍攻セシハ前顯革職王等ノ
指使ニ係ルト雖究ニ其ノ咎ヲ辭シ難ク本來重ク懲スヘキ筈ナルモ姑ク其ノ甘肅ニ在テ平
素勞績ヲ著ハシ回回教民ト漢人トニ悅服セララルヲ思ヒ格外ニ寬ニ從ヒ直ニ革職ヲ行
ヒ降調セシム都察院左都御史英年ハ載勛カ擅ニ條約違背ノ告示ヲ出スニ對シテハ嘗テ
阻止シタルヲ以テ其ノ情尙宥スヘキモ未タ能ク力爭セス究ニ其ノ咎ヲ辭シ難キニ由リ
恩ヲ加ヘ革職ヲ命シ斬監候トス又革職留任刑部尙書趙舒翹ハ平日尙外交ヲ嫉視スルノ
意ナク前ニ拳匪ヲ查辨セシ時モ亦庇縱ノ詞ナカリシモ究ニ草率ニシテ誤ヲ貽スニ屬ス
ルニ由リ恩ヲ加ヘ革職ヲ命シ斬監候トス英年ト趙舒翹トハ何レモ先ツ陝西省ニ在テ監
禁セシム又大學士徐桐ト降調前任四川總督李秉衡トハ何レモ既ニ難ニ殉ヒ死去シタル
モ人ノ口實ヲ貽スニ由リ何レモ革職ヲ命シ且卹典ヲ撤銷セシム今回ノ旨ヲ降シタル以
後凡ソ我友邦ハ何レモ共ニ拳匪ノ禍ヲ肇メタルハ實ニ禍首ノ激迫シテ成シタルモノ決
シテ朝廷ノ本意ニアラス朕カ禍首ノ諸人ヲ懲辨シ輕シク縱スナキコトヲ諒スルナラン

即天下ノ臣民モ亦此ノ案ノ關繫重大ナルニ曉然タラン此ヲ欽メヨ

附屬書第五號(千九百一一年二月十三日上諭)

禮部尙書啓秀ト前刑部左侍郎徐成煜トハ先ツ革職ヲ命シ奕劻及李鴻章ヲシテ其ノ犯罪
ノ確據ヲ查明シ直ニ奏明ヲ行ハシム此ヲ欽メヨ

附屬書第六號(千九百一一年二月二十一日上諭)

光緒二十七年正月三日內閣ハ左ノ上諭ヲ奉ス

今回ノ案件ニ關スル首禍ノ諸臣ハ昨己ニ分別シテ嚴ニ懲辦ヲ行ハシムル旨ヲ降セシ處茲
ニ奕劻及李鴻章ノ電奏ニ據ルニ各國全權大臣ヨリ尙加重スヘシト照會セシニ因リ酌
奪ヲ懇請ストノ趣ナリ載勛ハ既ニ自盡ヲ賜ヒ毓賢ハ己ニ直ニ法ヲ正スヲ命シ何レモ各
各員ヲ派シ前往シテ檢視セシム此ノ餘載漪載瀾ハ何レモ斬監候ト定メタルモ其ノ誼懿
親ニ屬スルヲ念ヒ特ニ恩ヲ加ヘ極邊ナル新疆ニ發往シ永遠監禁セシムル爲メ即日員ヲ
派シ押解起程セシム剛毅ノ情罪ハ較々重シ斬立決ト定メタルモ己ニ病死セシヲ以テ之
ヲ免ス英年ト趙舒翹トハ昨己ニ斬監候ト定メタルモ直ニ自盡セシムル爲メ陝西巡撫岑
春煊ヲ派シ前往シテ檢視セシム啓秀ト徐承煜トハ力メテ拳匪ヲ庇ヒ專ラ洋人ト難ヲ爲
セル旨各國ヨリ指稱セシニ因リ昨己ニ革職トシタルモ奕劻及李鴻章ニ命シ各國ニ照會
シテ之ヲ交回シ直ニ法ヲ正ス爲メ刑部堂官ヲ派シテ檢視セシム徐桐ハ拳匪ヲ輕信シ誤
シ大局ニ貽シ李秉衡ハ好ムテ高論ヲ爲シ固執ニシテ禍ヲ釀シタルニ由リ何レモ斬監候
ト定メタルモ難ニ臨ミ自盡セシヲ念ヒ己ニ革職シテ其ノ卹典ヲ撤銷セシヲ以テ再議ヲ
免ス首禍諸人ノ犯シタル罪狀ハ前旨内ニ逐一明白ニ聲叙セリ此ヲ欽メヨ

附屬書第七號(千九百一一年二月十三日上諭)

本年五月間拳匪亂ヲ倡ヘ勢日ニ鷓張ナリ朝廷ハ勦滅鎮撫共ニ難キヲ以テ屢次臣下ヲ召見シ一是ニ折衷セント期セシ處兵部尙書徐川儀、戸部尙書立山、吏部左侍郎許景澄、內閣學士聯元、太常寺卿袁昶ハ朕カ一再諮詢セシニ對シ詞意兩可ニ涉リシヲ以テ首禍ノ諸臣ハ遂ニ機ニ乘シテ誣陷シ交々奏シテ參劾シ以テ其身死刑ニ罹ルヲ致シタルモ徐川儀等ハ盡力年アリ平口交渉事件ノ辦理モ亦能ク和衷シテ勞績ヲ著ハシタルヲ念ヒ直ニ恩ヲ加ヘ徐川儀、立山、許景澄、聯元、袁昶何レモ原官ニ復スルヲ命シ吏部ニ知ラシムヘシ此ヲ欽
メヨ

附屬書第八號(千九百一一年八月十九日上諭)

光緒二十七年七月六日內閣ハ左ノ上諭ヲ奉ス

本日奕劻及李鴻章ヨリ各國ニ於テ滋事ノ地方ハ五箇年間文武ノ考試ヲ停止スル事ヲ議定セル趣ヲ具奏セル奏摺中順天太原地方ノ鄉試ハ仍應ニ停止スヘシ云云トアリ其ノ附屬書ニ列記セル山西省ノ太原府、忻州、太谷縣、大同府、汾州府、孝義縣、曲沃縣、大甯府、河津縣、岳陽縣、朔平府、文水縣、壽陽縣、平陽府、長子縣、高平縣、澤州府、隰州、蒲縣、絳州、歸化城、綏遠城、河南省ノ南陽府、光州、浙江省ノ衢州府、直隸省ノ北京、順天府、保定府、永清縣、天津府、順德府、望都縣、獲鹿縣、新安縣、通州、武邑縣、景州、灤平縣、東三省ノ盛京、甲子廠、連山、于慶街、北林子、呼蘭城、陝西省ノ甯羗州、湖南省ノ衡州府等ノ地方均シク應ニ文武ノ考試ヲ停止スルコト五年各省總督巡撫學政ニ著シテ遵照辦理シ告示ヲ出シテ曉諭セシムヘシ此ヲ欽
メヨ

附屬書第九號(千九百一年六月十九日清國全權大臣ヨリ帝國公使ヘノ來簡)
以書翰致啓上候陳者五月三日西安軍機處ヨリ左ノ來電ニ接シ候

旨ヲ奉ス戸部右侍郎那桐ニ頭品頂戴ヲ賞給シ專使大臣トシテ大日本國ニ前往シ敬謹
命ヲ行ハシム此ヲ欽メヨ

右御承知相成度此段照會得貴意候敬具

光緒二十七年五月四日

附屬書第十號

北京附近ニ於テ汚瀆セラレタル墓地表

英國墓地	一箇所
佛國墓地	五箇所
露國墓地	一箇所
合計	七箇所

附屬書第十一號(千九百一一年八月二十五日上諭)

七月十二日左ノ上諭ヲ奉ス

各省將軍、總督、巡撫及各關監督ハ先ツ二箇年間都テ外國ノ軍器彈藥及專ラ軍器彈藥ノ製造ニ供スル器械及材料ハ一切之ヲ購入シ國內ニ輸入スルヲ准サス此ノ旨該部ニ於テ知道スヘシ此ヲ欽メヨ

附屬書第十二號(千九百一一年五月二十九日清國全權大臣ヨリ筆頭公使ヘノ來簡)

以書翰致啓上候陳者四月七日貴大臣ノ照會内ニ西曆本年五月七日即中曆三月十九日賠償金ノ一事ニ關シ各國ノ支出金及公私各種ノ損害ハ西曆本年七月一日即中曆五月十六日ノ決算ニテ概計ノ銀數ハ四億五千兩内外ナリトノ照會ニ對スル貴王大臣ノ照復文中ニ中國政府ハ毎月百二十五萬兩ヲ支拂ヒテ該四億五千兩ヲ皆濟セント擬スト右之右ハ諸國全權大臣ニ於テ既ニ各本國政府ヘ詳細報告濟ニ候處惟中國政府ノ擬セララル毎月支拂ノ總數ナルモハ僅ニ賠償ノ元金丈ニ過キス未タ其ノ利子ヲ算セサルカ故ニ本筆頭大臣ハ貴王大臣カ再ヒ酌核ヲ行ヒ本件ニ關スル中國政府ノ主意ヲ速ニ示復セラレンコトヲ請フ旨御中越相成致了承候查スルニ賠償金ノ一事ニ關シテハ前次ノ照會中ニ中國艱窘ノ情形ヲ致佈達候處茲ニ來文ニ毎年ノ附銀千五百萬兩ハ三十年ニテ僅ニ賠償元金ヲ皆濟スヘキモ利子ノ一事ハ如何スヘキ主意ナリヤト御詢及相成候ニ付本王大臣ニ於テ毎年四釐ノ利子ヲ加ヘント擬シ既ニ電奏ニ及ヒ候處各國ヘノ賠償金四億五千萬兩ニ四釐ノ利子ヲ附スルコト照辨ヲ許可ストノ旨ヲ奉シ候ニ因リ欽遵シテ茲ニ及御通知候惟中國ノ財力ハ短絀ニ過キ能ク籌撥シ得ヘキハ依然毎年千五百萬兩ノ專款ニ止マリ候就テハ元金以外ニ附スヘキ利子ハ三十年ノ期限ヲ寬ニ延ヘ其ノ上半期ニ於ケル毎年支出ノ千五百萬兩ハ元金ニ支拂フモノト爲シ下半期ニ於ケル毎年支出ノ千五百萬兩ハ利子ニ支拂フモノト爲シ皆濟ノ日ヲ以テ款ヲ附スルヲ停止シ矢張稅務司ヲシテ經理セシメ其ノ利ヲ附スル一段ハ上年ニ元金若干ヲ支拂ヒタルニ因リ次年ノ利子ハ

若干ヲ減スルコトトシテ核算ス此ノ如ク期ヲ分ナテ元金ヲ支拂ヒ利子ヲ附スヘキカ抑々
或ハ毎年千五百萬兩中ノ幾分ヲ元金ニ幾分ヲ利子トシテ支拂フヘキカ一切ノ詳細ナル
辦法ハ尙妥議商定可致候尙中國ニ於テハ既ニ數ノ如ク元金ヲ支拂ヒ又利子ヲ附スルコ
トヲ致承諾候ニ因リ賠償金ノ一事ハ既ニ實行ヲ經タルモノト謂フヘク隨テ速ニ各國撤
兵ノ期限ヲ示知セラレシコト企望ノ至ニ勝ヘス候右ハ迅速ニ諸國全權大臣ニモ御轉達相
成度回答旁此段得貴意候敬具

光緒二十七年四月十二日

附屬書第十三號
償金還濟

年次	第一款 75,000,000 兩 千九百二十年ヨリ三十九年間 却基金ニヨリ千九百四十年 =完済	第二款 90,000,000 兩 千九百十一年ヨリ三十年間 却基金ニヨリ千九百四十年 =完済	第三款 150,000,000 兩 千九百十五年ヨリ二十六年 間却基金ニヨリ千九百四十 年=完済	第四款 50,000,000 兩 千九百十六年ヨリ二十五年 間却基金ニヨリ千九百四十 年=完済	第五款 115,000,000 兩 千九百三十九年ヨリ 却基金ニヨ =完済
1902	元利 3,829,500	利子 2,400,000	利子 6,000,000	利子 2,000,000	利子
1903	"	"	"	"	"
1904	"	"	"	"	"
1905	"	"	"	"	"
1906	"	"	"	"	"
1907	"	"	"	"	"
1908	"	"	"	"	"
1909	"	"	"	"	"
1910	"	"	"	"	"
1911	"	元利 3,469,800	"	"	"
1912	"	"	"	"	"
1913	"	"	"	"	"
1914	"	"	"	"	"
1915	"	"	"	"	"
1916	"	"	元利 9,381,000	元利 8,200,500	"
1917	"	"	"	"	"
1918	"	"	"	"	"
1919	"	"	"	"	"
1920	"	"	"	"	"
1921	"	"	"	"	"
1922	"	"	"	"	"
1923	"	"	"	"	"
1924	"	"	"	"	"
1925	"	"	"	"	"
1926	"	"	"	"	"
1927	"	"	"	"	"
1928	"	"	"	"	"
1929	"	"	"	"	"
1930	"	"	"	"	"
1931	"	"	"	"	"
1932	"	"	"	"	"
1933	"	"	"	"	"
1934	"	"	"	"	"
1935	"	"	"	"	"
1936	"	"	"	"	"
1937	"	"	"	"	"
1938	"	"	"	"	"
1939	"	"	"	"	"
1940	"	"	"	"	"
	千九百二十年ヨリ起リ總額四億五千萬兩ニ對スル百分ノ0.18433	千九百十一年ヨリ起リ總額四億五千萬兩ニ對スル百分ノ0.23773 即チ前項ノ百分合セ百分ノ0.42206	千九百十五年ヨリ起リ總額四億五千萬兩ニ對スル百分ノ0.75200 即チ前二項ノ百分合セ百分ノ1.17406	千九百十六年ヨリ起リ總額四億五千萬兩ニ對スル百分ノ0.26677 即チ前三項ノ百分合セ百分ノ1.44083	千九百三十九年ヨリ起リ總額四億五千萬兩ニ對スル百分ノ0.24144 即チ合セ百分ノ1.68226

附屬書第十四號

在北京公使館地域區劃ノ説明

1 點ハ正陽門樓ノ東側ヨリ東へ距ル百呎韃韃街南城壁ノ上ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ殆ト正北ニ向ヒ二百十六呎ノ延長ヲ以テ2 點ニ達ス

2 點ハ皇城大清門前碁盤街ヲ圍繞セル白石欄ノ東南角ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ該欄ノ東側ニ沿ヒ殆ト正北ニ向ヒ三百十呎ノ延長ヲ以テ3 點ニ達ス

3 點ハ公使館街(東交民巷)ニ連續スル道路ノ北側ニ在リテ2 點ヨリ來ル境界線ト公使館街北側ノ延長線トノ交叉スル處ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ公使館街ノ北側ニ沿ヒ(城壁ノ外圍及其ノ角ニ附イテ測定シ)六百四十一呎半ノ延長ヲ以テ4 點ニ達ス

4 點ハ公使館街ノ北部ニ沿ヒテ測定シ「ゲ」ズリ「街」(兵部街)ノ角(西南)ヨリ西百四十六呎ノ處ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ(建築物ノ外圍及其ノ角ニ附イテ測定シ)二千百五十二呎ノ延長ヲ以テ概シテ北ニ向フ但シ現存建築物ニ沿ヒ其ノ間隙ニ在リテハ「ゲ」ズリ「街」左側大體ノ道筋ニ並行線ヲ畫シ以テ「ゲ」ズリ「街」ト皇城外廓トヲ通スル門ノ西側ヨリ西へ百五十七呎ノ處即5 點ニ達ス

5 點ハ「ゲ」ズリ「街」街端ニ在ル門ノ西側ヨリ百五十七呎ヲ隔テテ皇城外廓南城壁ノ

南面ニ在リ此ノ點ヨリ境界線ハ城壁ニ沿ヒ殆ト正東ニ向ヒ千二百八十八呎ノ距離ヲ以テ6點ニ達ス

6點ハ皇城外廓ノ東南角ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ城壁ニ沿ヒ殆ト正北ニ向ヒ直線ノ測定ニ依リ二百十八呎ノ距離ヲ以テ7點ニ達ス

7點ハ外廓ノ東北角ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ殆ト正東ニ向ヒ六百八十一呎ノ距離ヲ以テ8點ニ達ス

8點ハ皇城城壁ノ東南角トス

此ノ點ヨリ境界線ハ城壁ニ沿ヒ殆ト正北ニ向ヒ六十五呎ノ距離ヲ以テ9點ニ至ル

9點ハ皇城城壁東南角ヨリ六十五呎ノ處ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ正東ニ向ヒ三千十呎ノ延長ヲ以テ10點ニ達ス

10點ハ「ケッテレル」街ノ西側ニテ同街ト伊太利街(長安街)トノ交叉角ヨリ三百呎ノ處ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ「ケッテレル」街ノ西面ニ沿ヒ殆ト正南ニ向ヒ11點ニ達ス

11點ハ韃韃街南城壁ノ上ニテ即崇文門ノ西北角ニ在リ

此ノ處ヨリ境界線ハ城壁ニ沿ヒ且崇文門西方ノ馬道ヲ取込ミ12點ニ達ス

12點ハ崇文門樓ヨリ西へ百呎ヲ隔テテ城壁ノ上ニ在リ

此ノ點ヨリ境界線ハ城壁ノ南面ニ沿ヒ圖ニ示ス如ク城壕ヲ取込ミテ進ミ1點ニ接合ス

圖中目標トシテ示セル諸點左ノ如シ

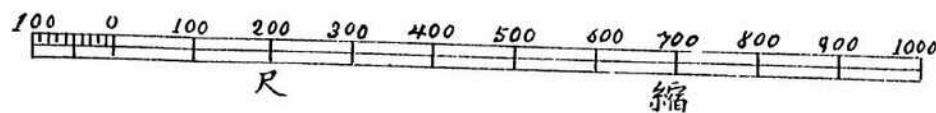
A、韃韃街城壁頂上ノ北側ニ沿ヒテ東ニ向ケ測定シ正陽門樓ヨリ百七呎ニ於ケル點ト

ス

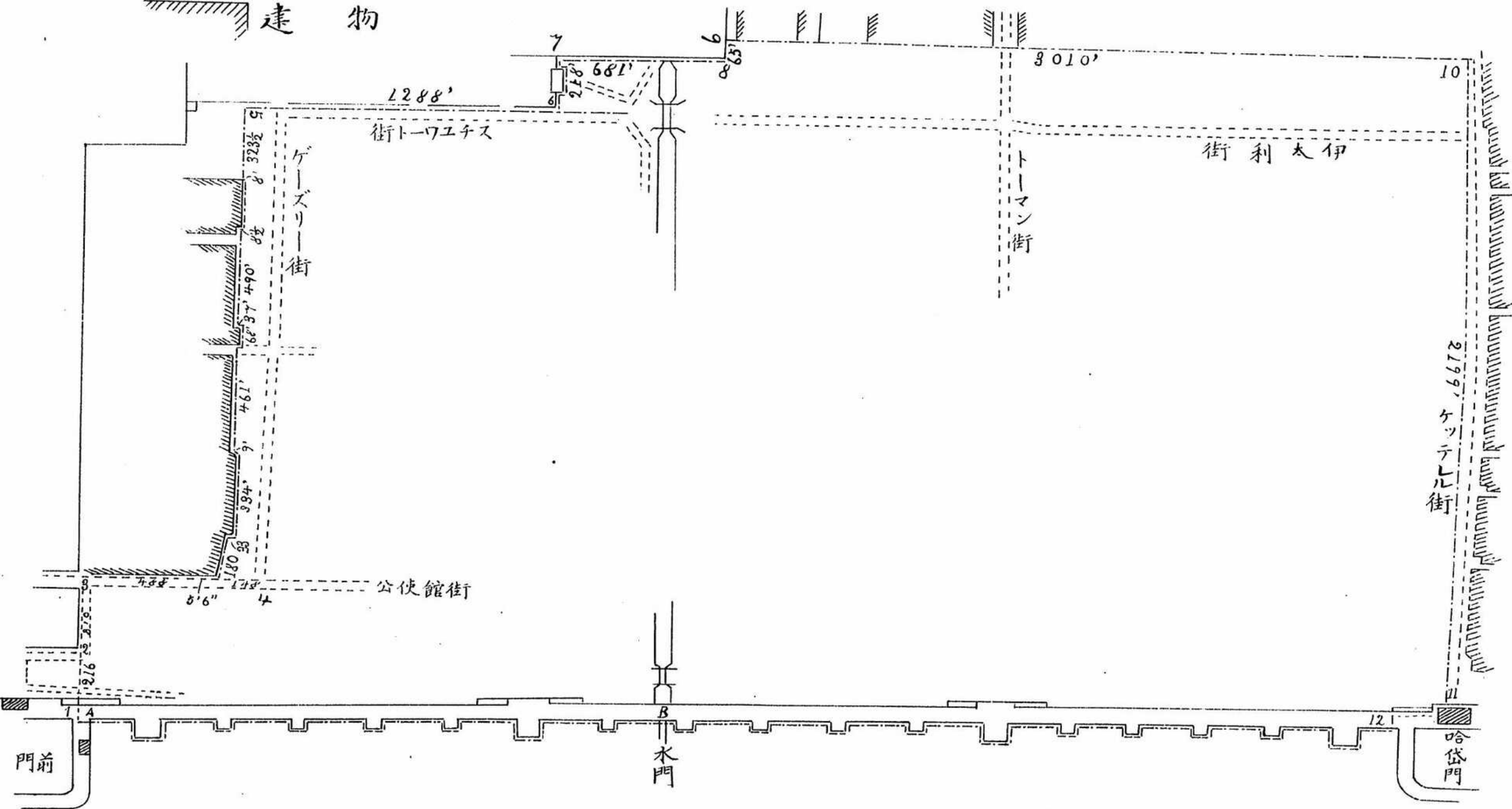
B、韃韃街城壁北側ノ頂上ニテ恰モ流水渠ヲ縱斷セル中央線上ニ於ケル點トス

C、崇文門樓ノ西北角トス

北 京 公 使 館 界 境



- - - - 境界線
 - - - - 道路
 // // 建物



附屬書第十五號(千九百一一年二月一日上諭)

各省ノ匪徒名ヲ滅洋ニ藉リ衆ヲ糾メ會ヲ立テ各國人民ヲ攻撃シタルニ因リ疊次旨ヲ降シ嚴禁シタルハ嘗ニ三令五申ノミナラス然ルニ近年山東省管下ニ大刀會義和拳等ノ名目アリ到處傳習肆ニ殺掠ヲ行ヒ直隸省内ニ蔓延シ京師ニ闖入シ以テ教堂及各國人民各種ノ家屋財産等ヲ焚燬シ使館ヲ圍攻シ罪ヲ隣邦ニ開キ誤ヲ大局ニ貽スヲ致ス朕其ノ保護未タ至ラザリシヲ以テ疚ヲ負フ滋々深シ爾百姓平日毛ヲ食ミ土ヲ踐ミ俱ニ國恩ヲ受クルニ拘ハラス敢テ勇ヲ好ミ鬪狠ノ私ヲ逞フシ符呪邪妄ノ術ヲ習練シ捕ヲ拒キ官ヲ戕ヒ各國人民ヲ殺害シ肆ニシテ忌憚スルナク遂ニ此ノ奇禍ヲ肇メ上ハ君父ノ憂ヲ貽ス追念ノ餘方ニ深ク痛恨ス既ニ各路ノ統兵大臣ニ嚴飭シ實力勦辦務メテ根株ヲ盡クサシメ且義和拳ヲ縱庇シタル王大臣ハ各應得ノ罪ニ照ラシ輕重ヲ分別シ法ヲ盡クシ嚴懲セシメ各國人民ヲ殺害凌虐シタル城鎮ニ於テハ一概ニ文武各種ノ考試ヲ停止スルコト五箇年以テ懲儆ヲ示ス惟恐ル鄉僻ノ愚民尙周知セサルコトヲ故ニ特ニ再々嚴ニ申禁ヲ行ヒ以テ教ヘスシテ誅セララルルヲ免カレシム爾軍民人等黨ヲ結ヒ會ニ入ルハ例禁綦嚴ニシテ列朝カ會匪ノ案ヲ辦理セシトキ聊カ寬貸セザリシヲ知ルヘシ況ヤ各國皆友邦ニ屬ス教民モ亦赤子ニ係ル朝廷ニ於テハ一視同仁毫モ岐視スル無シ故ニ信教者タルト否トヲ論スルナク若或ハ果シテ欺カラルル事情アラシニハ亦官司ニ呈報シ平ヲ持シテ判斷セララルルヲ聽候スヘシ何ソ謠傳ニ輕聽シ刑章ヲ藐視スルヲ得ン事敗ルルノ後黠者ハ遠ク逃レ懦者ハ戮ヲ受ク法ノ容レ難キ所ナルモ其ノ情實ニ憫ムヘシ此ノ次嚴諭ノ後各宜シク

悔悟自新舊習ヲ痛改スヘシ若再ヒ惡ヲ怙ミ悛メサルノ徒アリテ各國人民ヲ仇視スル各
會ヲ私ニ立テ又ハ擅ニ入會シ械ヲ持シテ格闘シ公然劫掠ヲ行フ者アラハ首從各犯ヲ嚴
密ニ查拿シ法ヲ盡シテ懲治シ決シテ寬貸セス各省將軍總督巡撫等ノ大官ハ均シク牧民
ノ責務ヲ有スルニ由リ各其ノ所屬ニ嚴飭シ剴切ニ曉諭シ且此ノ諭旨ヲ黃紙ニ印刷シ徧
ク張貼シ行ヒ每家ニ諭シ每戸ニ曉シ勉メテ善良ノ民ト爲リ朝廷ヨリ諄々誥誡辟ヲ以テ
辟ヲ止ムルノ至意ニ負クナカラシムルヲ務ムヘシ通諭シテ之ヲ知ラシム此ヲ欽メヨ

附屬書第十六號(千九百年十二月二十四日上諭)

中外訂約以來各國人民ノ内地ニ入ルヲ准セシハ載セテ條約ニ在リ朝廷ハ邦交ヲ慎固ス
ル爲メ實力保護スヘキ旨屢次各省ニ諭飭セリ然ルニ地方官等ハ漫トシテ留意セス以テ
匪徒肆ニ滋擾ヲ行ヒ各國人民ヲ傷害スルノ案屢見迭出スルヲ致ス朕惟フニ自ラ薄德ニ
シテ以テ愚民ヲ化導スルナク良ニ深ク疚ヲ引ク而シテ地方各官平日洋務ニ於テ講求
スルヲ知ラズ交渉ニ於テ大體ヲ知ル無シ以テ原ヲ燎キ火ヲ引キ害ヲ君國ニ貽スニ至ル
心ヲ撫シ自ラ問ハハ亦當ニ安ンシ難カルヘシ自今以往各精神ヲ振刷シ成見ヲ捐除シ
修好睦鄰ハ古今ノ通義ナルヲ知ルヘシ遠人ノ中國ニ來ル或ハ通商以テ有無ヲ懸遷スル
アリ或ハ游歷以テ學識ヲ增長スルアリ即傳教ノ士モ亦人ニ善ヲ行フコトヲ勸ムルヲ以
テ本ト爲ス由ニ梯シ海ニ航シ備ニ艱辛ヲ極ム中國既ニ禮義ノ邦ト稱ス宜シク賓主ノ誼
ヲ盡クスヘシ況ヤ近年中國人民海外ニ出ツル者數十萬人ニ下ラス其ノ身家財產悉ク
各國ノ保全ニ依頼ス即報酬上ヨリ論スルモ亦豈岐視ヲ存スルヲ得ン茲ニ再ヒ責任ヲ
直隸及各省文武大官ニ負ハシメ所屬ニ通飭シ各國官民管内ニ入ルトキハ務メテ切實ニ
照料保護スヘシ若不逞ノ徒アリテ各國人民ヲ凌虐戕害スルコトアリハ立口ニ馳往シ
テ彈壓シ犯人ヲ捕獲シテ懲辦シ聊カ遲延ニ涉ルヘカラス若或ハ漫ニ覺察スルナク甚シ
キハ故意ニ縱容シ以テ巨案ヲ釀成シ或ハ條約違反ノ所行アルモ即時ニ彈壓セス犯罪人
モ亦立口ニ懲辦セサルニ於テハ當該總督巡撫文武大官及地方有司各官ハ一概ニ革職シ
永ク叙用セス他省ニ投効シ開復ヲ希圖スルヲ准サス亦別ニ獎叙ヲ給スルヲ得ス此ノ次ノ

諭旨ハ各省一體ニ刊布シ曉諭ヲ出示シ以テ官民交々警戒シ永ク澆風ヲ革ムルヲ期スヘシ此ヲ欽メヨ

附書屬第十七號

第一條 上海ニ黃浦江水路局ヲ設置ス

第二條 黃浦江水路局ハ同江水路ノ更正及改良機關タリ又其ノ監督機關タルノ兩任務ヲ有ス

第三條 黃浦江水路局ノ管轄區域ハ江南機器局ノ下方ノ境界ヨリ機器局灣ノ入口ニ向テ延長スル一線ヲ起點トシテ揚子江ノ赤色浮標ニ至ルマテノ間ニ及フモノトス

第四條 黃浦江水路局ノ組織左ノ如シ

イ 上海道臺

ロ 上海稅關長

ハ 上海領事團ノ選出ニ係ル者二名

ニ 上海各國商業會議所委員ノ選出ニ係ル同會議所議員二名

ホ 水運會社、商會及商人ニシテ海路貿易ノ爲メ上海、吳淞又ハ其ノ他ノ黃浦江諸港ニ年額總計五萬噸以上ノ船舶ヲ出入セシムル者等ノ選出ニ係リ水運業ノ利益ヲ代表スル者二名

ヘ 上海各國居留地會議員一名

ト 上海佛蘭西居留地會議員一名

チ 海路貿易ノ爲メ上海、吳淞又ハ其ノ他ノ黃浦江諸港ニ年額總計二十萬噸以上ノ船舶ヲ出入セシムル各國ノ代表者一名、此ノ代表者ハ其ノ國政府之ヲ指定スルモノト

第五條 職權ニ依テ黄浦江水路局員タル者ハ其ノ據テ以テ局員タルノ本職ヲ保有スル
間ハ其ノ任務ニ在ルモノトス

第六條 居留地會及商業會議所ノ代表者ノ任期ハ一箇年トス但シ直ニ再選セララルコト
ヲ得第四條「テ」項ニ掲記シタル政府ノ指定ニ係ル局員ノ任期モ亦一箇年トス其ノ他ノ
局員ノ任期ハ三箇年トス但シ直ニ再選セララルコトヲ得

第七條 任期中缺員ヲ生シタルトキハ後任者ノ任期ハ其ノ前任者ノ任期如何ニ從ヒ一
箇年又ハ三箇年トス

第八條 黄浦江水路局ハ一箇年ノ任期ヲ以テ局員中ヨリ議長及副議長ヲ選任スヘシ
議長ノ選舉ニ於テ多數ノ成立セサルトキハ筆頭領事ニ對シ其ノ表決ヲ以テ多數ヲ成
立セシムルコトヲ請求スヘシ

第九條 議長不在ノ場合ニハ副議長之ニ代ルヘシ

議長副議長共ニ不在ナルトキハ出席委員ニ於テ臨時議長ヲ互選スヘシ

第十條 總テ該局ノ會議ニ於テ表決可否同數ナルトキハ議長ノ表決ヲ以テ之ヲ決ス

第十一條 局員四名以上ノ出席アルニ非サレハ會議ヲ開クヲ得ス

第十二條 黄浦江水路局ハ事業ノ實行及規則ノ施行上必要ナリト認ムル役員及雇員ヲ
任命シ其ノ俸給給料賞與等ヲ決定シ其ノ使用ニ供セラレタル資金中ヨリ之ヲ支拂フ
ヘシ又該員等ニ適用スヘキ規則ヲ制定シ各般ノ措置ヲ爲シ且隨意ニ之ヲ解任スルコ

トヲ得

第十三條 黄浦江水路局ハ運輸交通上ノ取締ノ爲メ必要ナル措置ヲ決定ス第三條ニ示シタル區域以内及蘇州河其ノ他上海ノ佛蘭西居留地各國居留地並ニ吳淞ノ外國雜居地ヲ通過スル河川及其ノ他ノ黄浦江ニ注ク河川等一切水路ノ河口ヨリ上流二哩ニ至ル迄ノ距離以内ニ於ケル船舶繫留ニ要スル機具ノ裝置及船舶繫留ニ關スル規定等モ亦該局ノ決定ニ屬ス

第十四條 黄浦江水路局ハ黄浦江ニ於ケル一個人ノ所有ニ屬スル据附ケ船舶繫留機具ヲ收用シ公共ノ繫留組織ヲ設定スルノ權ヲ有ス

第十五條 第十三條ニ記載シタル區域ニ於ケル河川ノ浚渫埠頭棧橋ノ築造等ノ如キ各事業ノ實行及橋船家船ノ設置ニ就テハ該局ノ許可ヲ受クルヲ要ス該局ハ之ヲ拒否スルヲ得

第十六條 黄浦江水路局ハ黄浦江及前記諸河川ニ於ケル一切ノ障害物ヲ除去セシメ又若其ノ必要アルトキハ該障害物除去ノ爲ニ生スル費用ヲ責任者ヨリ徵收スルノ全權ヲ有ス

第十七條 黄浦江水路局ハ黄浦江ノ前記區域内及第十三條ニ記載シタル諸河川ニ於ケル浮燈浮標立標陸標標燈ノ處分及水路航行ノ安全ニ必要ナル其ノ他ノ陸上裝置機具ノ處分權ヲ有ス但シ燈臺ハ之ヲ除キ從前ノ通り千八百五十八年ノ英清條約第三十二條ノ規定ニ依ル

第十八條 黃浦江ノ改良保存ニ關スル事業ハ其ノ實行上黃浦江水路局ノ管轄區域外ニ涉ルヲ要スルモト雖一切該局ノ工事監督ノ下ニ屬ス但シ此ノ場合ニハ清國官廳ヲ經由シテ必要ノ命令ヲ傳達シ且其ノ承諾ヲ得テ實行スヘシ

第十九條 黃浦江水路局ハ事業ノ爲ニ徵收シタル一切ノ資金ニ關スル收納及仕拂ヲ掌リ且當該官廳トノ協議ニ依リ賦課金ノ取立及規則ノ適用ヲ確實ナラシムルニ適當ナル一切ノ處置ヲ執ルヘシ

第二十條 黃浦江水路局ハ長及其ノ屬僚ヲ任命ス此ノ職員ハ黃浦江水路局ニ付與セラレタル權限内ニ於テ第十三條ニ掲記シタル黃浦江ノ區域内ニ其ノ職務ヲ執行スヘシ

第二十一條 黃浦江水路局ハ其ノ規則及命令ノ施行ヲ確實ナラシムル爲メ警察及監視事務ニ關スル職司ヲ組織スルノ權ヲ有ス

第二十二條 黃浦江水路局ハ上海水先案内(楊子江下流水先案内)業ノ指揮監督權ヲ有ス上海ニ赴クヘキ船舶ノ免許水先案内者ノ免狀ハ專ラ該局ニ於テ交付シ該局ハ隨意ニ之ヲ處置スルヲ得

第二十三條 黃浦江水路局ハ其ノ規則違反者アル場合ニハ左ノ如ク犯則者ニ對シ起訴スヘシ即外國人ニ對シテハ其ノ所屬國領事又ハ當該司法官廳ニ起訴シ清國人又ハ清國ニ代表者ヲキ政府ノ所屬外國人ハ外國人一名ノ立會フヘキ會審裁判所ニ起訴スヘシ

第二十四條 黃浦江水路局ニ對スル一切ノ訴訟ハ上海領事團裁判所ニ提出スヘシ黃浦江水路局ハ其ノ書記ニ依リテ訴訟上代理セララルヘシ

第二十五條 黃浦江水路局員及該局ノ使用ニ係ル職員ハ該局ノ決議、行爲、契約又ハ經費ニ對シ一切ノ個人的責任ヲ負ハス但シ其ノ決議、行爲、契約並ニ經費ハ該局又ハ其ノ支部ノ職權ニ基キ又ハ其ノ命令ニ從ヒ該局發布ノ規則ヲ制定シ又ハ施行スルコトニ關スルモノタルヲ要ス

第二十六條 本附屬書第十三條ニ記載シタル規定ノ外黃浦江水路局ハ其ノ權限内ニ於テ必要ナル一切ノ命令規則ヲ發シ且違犯ノ場合ニ對スル罰金ヲ定ムルノ權ヲ有ス

第二十七條 第二十六條ニ記載シタル命令規則ハ領事團ノ認可ヲ經ルヲ要ス但シ命令規則案ノ提出後二箇月ヲ經過スルモ領事團カ異議ヲ述ヘス若ハ修正ヲ提出セザルトキハ該命令案又ハ規則案ハ認可セラレ且實施スヘキモノト見做サルヘシ

第二十八條 黃浦江水路局ハ黃浦江ノ改良保存ニ關スル事業ノ實行ニ必要ナル一切ノ地所ヲ獲得シ且之ヲ處置スルノ權ヲ有ス若シ之カ爲メ地所ヲ買收スルヲ有益ナリト認メタルトキハ上海洋涇濱北部外國居留地土地規則第六條(イ)項ノ規定ニ從フ此ノ場合ニ於テハ左ク如ク組織シタル委員ヲシテ其ノ代價ヲ定メシムヘシ

第一 土地所有者所屬ノ官廳ニ於テ選定シタル者一名

第二 黃浦江水路局ニ於テ選定シタル者一名

第三 筆頭領事ニ於テ選定シタル者一名

第二十九條 沿岸地所有者ハ前記ノ水路ニ改良ヲ加フル爲メ施シタル埋立工事ニ因リ其ノ所有地ノ前面ニ生シタル土地ニ對シ優先權ヲ有スルモノトス此ノ土地獲得ノ代價

ハ第二十八條ニ於ケルト同一ノ方法ヲ以テ組織シタル委員ヲシテ之ヲ定メシムヘシ

第三十條 黃浦江水路局ノ收入ハ左ノ諸賦課金ヨリ成立スルモノトス

イ 佛蘭西居留地及各國居留地ニ於ケル建家アリ又ハ建家ナキ地所ノ課稅價格ノ千分ノ一ニ相當スル年賦課金

ロ 江南機器局ノ下方ノ境界ヨリ機器局灣ノ入口ニ向ツテ延長スル一線ヲ起點トシテ黃浦江ノ楊子江ニ注ク所ニ至ル迄ノ間ニ於ケル黃浦江沿岸ノ土地ニ對スル前同様ノ賦課金此ノ土地ノ課稅價格ハ第二十八條ニ記載シタル委員ヲシテ之ヲ定メシムヘシ

ハ 上海、吳淞又ハ其ノ他ノ黃浦江諸港ニ出入スル百五十噸以上ノ支那形ニ非サル船舶ニ對シ一噸ニ付銀五分ノ賦課金

百五十噸及百五十噸以下ノ支那形ニ非サル船舶ハ前記賦課金ノ四分ノ一ヲ支拂フヘシ此ノ賦課金ハ船舶ノ出入幾回ナルニ拘ラス四箇月ニ唯一回之ヲ取立ルモノトス楊子江ヲ航行スル支那形ニ非サル船舶ニシテ單ニ航行免許證ヲ受取ル目的ヲ以テ吳淞ニ停留スルモノハ該港ニ出入ノ際商行爲ニ從事セサル限りハ前記賦課金ヲ免除ス但シ吳淞ニ於テ飲料水及食品ヲ購入スルハ自由タルヘシ

ニ 上海、吳淞又ハ其ノ他ノ黃浦江諸港ニ於テ稅關ニ届出タル各商品ニ對スル千分ノ一ノ賦課金

ホ 各關係外國人ノ釀出金額ニ均シキ清國政府ノ年釀金

第三十一條 第三十條ニ列舉シタル賦課金ハ左ノ官廳ヲ經由シテ之ヲ徵收スルモノトス

(イ)項ノ賦課金ハ各居留地會ヲ經由ス

(ロ)項ノ賦課金ハ清國ニ代表者アル政府ノ所屬國民ニ係ルトキハ其ノ國領事ヲ經由シ

清國人又ハ清國ニ代表者ナキ政府ノ所屬國民ニ係ルトキハ道臺ヲ經由ス

(ハ)項(ニ)項ノ賦課金ハ新稅關ヲ經由ス

第三十二條 黃浦江水路局ノ歲入總額ヲ以テ事業經營ノ爲メ借入レタル資金ノ元利償還、既成事業ノ維持及一般ノ經費ニ充ツルニ足ラサルトキハ該局ハ航海業、建家アリ又建家ナキ土地及貿易ニ對シ同一ノ割合ヲ以テ各種ノ賦課金ヲ増加シ必要ト認定セラレタル額ニ達セシムルノ權ヲ有ス此ノ未必ノ増加ハ第三十條(ホ)項ニ記載シタル清國政府ノ釀出金額ニモ同一ノ割合ヲ以テ之ヲ適用スヘシ

第三十三條 黃浦江水路局ハ第三十二條ニ規定シタル賦課金増加ノ必要ハ豫メ之ヲ南洋大臣及上海領事團ニ通告スルヲ要ス而シテ上海領事團ノ認可ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ實行スルヲ得ス

第三十四條 黃浦江水路局ハ年度計算ノ終結後六箇月以内ニ前十二箇月間ノ一般ノ狀況及收支ニ關スル詳細ノ報告ヲ南洋大臣及上海領事團ニ提出スヘシ此ノ報告ハ公示スヘキモノトス

第三十五條 精算公示シタル收支ノ計算ニ依リ收入ノ支出ニ超過スルコト證明セラレタルトキハ上海領事團ト黃浦江水路局トノ協議ニ依リ第三十條ニ記載シタル賦課金ヲ同一ノ割合ヲ以テ減額スヘシ

此ノ未必減額ハ第三十條(ホ)項ニ記載シタル清國政府ノ釀出金額ニモ之ヲ適用スヘシ
第三十六條 初三年ノ期限滿テタルトキハ各締約國ハ本附屬書ニ記載セル條項中改正ヲ要スルヤ否ヤヲ共同審査スヘシ尙右ト同一ノ條件ニ依リ三年毎ニ改正ヲ行フヲ得ハシ

第三十七條 黃浦江水路局ノ命令ハ第十三條ニ記載シタル區域内ニ於テハ上海領事團ノ認可ヲ經タルモノニ限り各外國人ニ對シテ効力ヲ有スヘシ

千九百一一年九月七日 北京ニ於テ

附屬書第十八號(千九百一一年七月二十四日上諭)

光緒二十七年六月九日內閣ハ左ノ上諭ヲ奉ス

從來官ヲ設ケ職ヲ分ツハ惟時ニ依リ宜ヲ制スルニ在リタリ今ヤ重テ和議ヲ定ムルノ時ニ際ス邦交ヲ以テ重ト爲シ一切信ヲ講シ睦ヲ修スルハ尤モ人ヲ得テ理スルニ賴ル從前總理各國事務衙門ヲ設立シテ交渉ヲ辨理シ歷テ年所アリト雖惟派スル所ノ王大臣等ハ多ク兼攝ニ係リ心ヲ職守ニ殫クス能ハス自ラ應ニ特ニ專員ヲ設ケ以テ責成ヲ專ニスヘシ總理各國事務衙門ハ改メテ外務部ト爲シ六部ノ前ニ班列セシメ和碩慶親王奕劻ヲ簡派シテ總理外務部事務ト爲シ體仁閣大學士王文韶ヲ會辦外務部大臣ト爲シ工部尙書瞿鴻禨ヲ外務部尙書ニ轉補シテ會辦大臣ト爲シ太僕寺卿徐壽朋候補三品京堂聯芳ニハ外務部左右侍郎ヲ補授ス該部ニ設クヘキ一切ノ司員定數選補ノ章程及各長官并各官ニハ如何ニ俸祿ヲ優給スヘキヤノ一事ハ政務處大臣ヲシテ吏部ニ會同シ妥速ニ覈議シテ具奏セシム此ヲ欽メヨ

附屬書第十九號

謁見ニ付遵守スヘキ儀式覺書

第一 清國皇帝陛下ヨリ外交官團休又ハ各國代表者各別ニ賜ハルヘキ謁見ハ乾正宮正殿内ニ於テスルモノトス

第二 右謁見ノ爲メ參内又ハ退出ノ際各國代表者ハ景運門外マテ其ノ轎ニ乘リ該門ニテ轎ヲ降り乾清門階前マテ小轎(椅轎)ニ乘リ該所ヨリ乾清宮内陛下ノ御前マテ歩行スルモノトス

退出ノ時モ亦各國代表者ハ右參内ノ時ト同一ノ方式ヲ以テ其ノ居館ニ歸ルモノトス

第三 各國代表者カ其ノ信任狀又ハ其ノ國元首ノ親翰ヲ清國皇帝陛下ニ捧呈セントスルトキハ皇帝ハ親王乗川ノモノニ均シキ飾及黃襟ヲ具ヘタル轎ヲ該代表者ノ居館ニ遣シテ之ヲ迎ヘ其ノ歸館スルトキ亦同一ノ方法ヲ以テ之ヲ送ラルヘシ又其ノ往復ニ隨從セシムル爲メ儀仗兵一隊ヲ該代表者ノ居館ニ遣サルヘキモノトス

第四 信任狀又ハ其ノ國元首ノ親翰ヲ捧呈スルニ當リ各國代表者該書狀ヲ携帯スル間ハ陛下ノ御前ニ至ルマテノ宮城各門ハ其ノ中央出入口ヲ通過スルモノトス

右謁見後退出ノ時ハ其ノ通行セントスル各門ニ關シテハ北京宮廷ニ於テ外國代表者ノ謁見ニ付既定シタル慣例ニ遵フモノトス

第五 皇帝ハ外國代表者ヨリ捧呈セントスル前掲ノ書狀ヲ直接ニ其ノ手中ニ收受セラルルモノトス

第六 皇帝ニ於テ各國代表者ヲ招宴セララルトキハ其ノ宴席ヲ大内ノ殿中ニ設ケラルヘク且陛下之ニ親臨セララルヘキモノトス

第七 要スルニ各國代表者ニ關シ清國ノ採用スヘキ儀式ハ如何ナル場合ニ於テモ關係諸國ト清國トノ完全ナル同等ニ基由セサルコトナク又毫モ相互ノ威嚴ヲ傷クルコトナカルヘキモノトス

樞密院會議筆記

臺灣總督府通信事務
官通信事務官補特別
任用令

明治三十五年一月十五日午前十時十分開議
聖上臨御不被為在

出席員

議長

西園寺議長

副議長

東久世副議長 十七番

顧問官

副島顧問官 十九番